

第3回総合計画審議会 第2次横手市総合計画総括に係る意見交換内容

政策1 伸び伸び子育てできる環境と、みんなが健康に暮らせるまちづくりを進めます

主な意見

Aグループ

1-1子育て支援の充実

- ・ マル福が高校生まで対象に拡充されて助かっているので継続してほしい。
- ・ 保育所充足率は100%となっているが、障がいを持つ子や医療ケアが必要な子供は看護師の配置などが必要になるため預かってもらにくい。食事の補助に親が来てもらえるならOKという場合もある。親が働くことができない状況が生じる。市の保健師等を必要な時間帯にスポットで派遣してもらえるような制度があればよい。

1-2健康な心と体づくりの推進

- ・ 健診の重要性を感じている。
- ・ 自分の地域の健診の日程に都合が合わなかった際、他地区の健診を受診させてもらって助かった。
- ・ 土日に健診を受けられるようになって良かった。乳がん検診は土日の健診の対象外であり、受診できなかった。市立病院と連携し土日健診が増えれば健診受診率が向上するのではないか。
- ・ 心の健康づくりの取り組みとして「ゆらぎ期」世代を対象とした取組も必要ではないか。更年期に関することなど周りになかなか相談しにくい状況と思う。女性だけの問題ではなく、男性はうつになりやすい傾向があるようだ。

1-3健康でいきいきとした高齢社会の推進

- ・ 雪への対応に困っている声が多い。補助があっても限度がある。
- ・ 地域包括ケアシステムは重要な取組。地域に支援が必要な方がいるという情報の共有が重要。地域住民が主体となって支援できるような仕組みを作ることができればよい。
- ・ 高齢者を狙った詐欺が増えている。電話がかかってきた際に「この電話は録音されています」的なメッセージが流れる機械の取付に対して補助があってもよいのでは？

1-4障がい者（児）福祉の充実

- ・ 福祉の充実は良い方向に向いていると思うが、障がい児福祉の更なる充実が必要。支援学校から放課後デイサービスへの送迎サービスは充実しているが、普通学校から放課後デイサービスへの送迎が少ない。また就労支援施設の終了（放課）が15時30分であり、保護者はその時間に合わせて自宅にいない必要があり、長い時間働くことができない。※1-1と共通して障がい児の親がフルタイムで仕事ができる環境づくりが必要。

1-5福祉を支える人材の確保と育成

- ・ 地域の中にボランティア活動している団体が増えていると感じている。
- ・ 避難行動支援者の登録者名簿への登録率の達成度が「C」となっている。支援者（同居家族以外）の記載がハードルを上げているのではないと思う。支援者となる人は、いざとなったときにその人の命を預かると考えれば、責任が重く感じるのではないか。
- ・ 民生委員に地域差がある。親身になって相談に乗ってくれる方もいれば、民生委員が誰なのかわからない地域もあるようだ。
- ・ 民生委員が被害にあう事件があったが、横手市ではどのような対応をとっているか。「面談は自宅ではなく公共施設で」「1対1は避けて市職員も同席」などの対応も今後検討が必要でないか。

1-6福祉を支える人材の確保と育成

- ・ 不登校の児童生徒が増えており、ひきこもり若者の支援と合わせて支援が必要である。
- ・ 輝き教室などには親が付き添えば通えるが、自分一人で通うことが難しい。結果、親が「フルタイムで仕事することが難しくなる」、職場で話にくい内容のため、家にいさせるしかなくなり、結果「ひきこもり」となるなど悪循環が生じている。
- ・ 東かがやき教室が増えるが、山内などから各かがやき教室に通うのはハードルが高い。学校の代わりという位置づけである必要はないので、学校に通えないでいる子供が集い、交流できるような施設が増えると良い。

政策２ 学びの充実とスポーツ・芸術文化の振興により、生きる力と豊かな心を育みます

主な意見

Aグループ

2-1横手を愛する心と生きる力を育む学校教育の充実

- ・給食食材の横手市産使用率が低いことが残念。物価高騰等様々な要因があると思うが、地元食材をもっと子供たちに食べさせてほしい。
- ・ICTを使った授業が、楽しいと思う児童生徒が増えていること、また対応する職員の習熟度が増していることは良いことである。また、教育委員会がスピーディーに対応してくれてよかった。
- 一方で、先進国のスウェーデンでは、端末を行き渡らせた結果学力が低下したという報告もある。国はデジタル教育まっしぐらという状況だが、学力低下を招かないよう注視してほしい。
- ・食文化（発酵文化）も今後どうしていこうとしているのか見えない。

2-2安全で安心して学べる教育環境の整備

- ・食文化（発酵文化）も今後どうしていこうとしているのか見えない。

2-3元気なまちを築く生涯スポーツの促進

- ・障がいのある人もシティーハーフマラソンに参加しやすいよう、障がい者枠のエントリーを作ればよいのではないか。

2-5よこての伝統文化の継承と再発見

- ・郷土芸能の様子を撮影して、学校教育の活かそうとしているようであるが、地域の歴史を知るため？継承させるため？方向性が携わっている者からしたらよくわからない。

政策3 豊かな自然環境を守り、安心して暮らすことのできるまちづくりを進めます

主な意見

Bグループ

3-1安心して暮らすことのできるまちづくりの推進

- ・空き家の補助金はいい政策だと思うが、基準の見直しや、もう少し予算を増やした方がいいのではないか。
- ・空き家に関する企業の実施に対し、補助金等があれば企業も実施やすくなるのではないか。
- ・空き家バンクが機能していないように感じる。いい物件は直接取引が行われ、古い物件しか登録されない傾向がある。横手市以外は機能しているように感じるので、機能するような検討が必要ではないか。

3-3災害に強いまちづくりの推進

- ・消防に対する横手市の対応は手厚いと思う。ただ、修繕については、予算がつかずに直せないような話も聞く。緊急車両なので、小規模な修繕でも直す必要があると思う。車両なので、実際に開けてみなければわからない部分もあるが。
- ・昨年度、自主的に防災士の資格を取得した人数は60名いるが、防災士を取得してからの実用が難しいと感じている。
- ・消防車の出動回数30回に対し、救急車の出動回数は3,000回で、回数で見ると差があるが、予算の配分の際は、こういった数字だけでなく、安全性の面からの配分の検討も必要だと思う。
- ・水没した際の対応について、対応する課が分かりづらい。

3-4循環型社会の一層の推進

- ・クリーンプラザの焼却エネルギーを、雪対策などに有効活用することはできないのか。
→ 発電していることを事務局から回答

3-5地球温暖化対策の推進

- ・農家の方で、企業からソーラーパネルの下刈りを請け負っている事例があるようで、収入に繋がる仕組みが出来ていることは、いいと思う。
- ・Jクレジットという取組を初めて知った。
- ・ガスの地産地消については難しい部分があるが、企業が脱炭素に取り組むことに対し、助成金があれば取組が進むのではないか。

政策4 魅力ある地域資源を活用し、人を呼び、仕事を生み出す産業の振興を図ります

主な意見

Bグループ

政策4全体

- ・重要度については高いが、満足度については低い傾向があるようだ。指標は概ね達成しているようだが、市民としては満足していないようだ。

4-1魅力ある農林業の振興

- ・施策3-5にも関連するが、稲わらからメタンガスが発生する。発生させないような取組みを実施しているが、中には設備が必要になるものもあるので、そういった取組みに対する補助金があれば取組みしやすい。
- ・長干しについては、Jクレジットを活用できる。
- ・新規就農は増加しているようだが、定着していないように感じる。最近は天候不順などが原因にあるが、5年間の補助金では足りないと感じる。
- ・農家と農業に従事したいマッチングについては、お互いの条件があわず、あまり進んでいない。

4-4観光・物産資源の発掘と発信

- ・旧横手市と旧町村で、予算に差がありすぎて事業をやりたくてもやれない状況がある。理解はしているが、一律カットというような手法をされるとどうしようもないので、検討してほしい。

4-5企業誘致の推進、企業留置と雇用対策

- ・工業団地の整備や企業誘致に力を入れているようだが、工業系の職種が増えても、女性が増えない。女性が増えないと人口が増えないという話もあるので、女性の働く場所（特に若い世代）の選択肢が増えるような取組みも必要ではないか。例えば、映像制作会社など、最近は、オンラインでの仕事も増えているので、そういった企業の誘致や、マッチングができれば、横手市でも増えるのではないか。
- ・特に大学卒業世代への支援が必要ではないか。
- ・東成瀬村では、「なるテック」の取組みが上手くいっているようだ。
- ・若者が離れる要因については、職業の選択だけでなく、外出先の魅力などもあると思う。

その他

- ・ネーミングライツの取組みはいいと思う。一方で、中小企業は参加したくても中々参加できない。ネーミングライツに限らず、中小企業が参加、協力できる取組みが様々あれば、協力したい企業はいると思うので、いろいろと取組みを進めてほしい。
- ・食文化（発酵文化）も今後どうしていこうとしているのか見えない。（Aグループの施策2-1で出た意見）

政策5 暮らしを支える都市基盤を強化し、便利で快適なまちづくりを進めます

主な意見

Bグループ

5-1雪国の快適な暮らしの実現

- ・雪国よこて安全安心住宅普及促進事業は使用されているようだが、耐震改修補助金はあまり使用されていないようだ。建築基準法が改正される中で、義務化される部分が多くなるので、もう少し手厚い政策を検討してはどうか。
- ・秋田市に比べれば、除雪はすばらしいと思う。
- ・自宅を購入する際には、どうしても除雪の事を考えなければならない。
- ・融雪溝があればいいと思うが、増やす計画はあるか。→これ以上は増えないと思う。最近は、高齢化が進み、管理が難しくなっている。
- ・融雪溝のある地域はきれいに除雪できるが、融雪溝がなく、寄せる場所もない地域は、どうしても道路に雪を出すしかない。市では出さないでほしいというが、除雪した後に、道路脇に雪を寄せるといった飴ごっこ状態になっているのが実情。
- ・除雪業者により、除雪作業にムラがあるように感じるが、市の方で指導等は行っているのか。
 - そういったご意見を頂いた際は、除雪業者へ伝えていると事務局から回答
- ・一人暮らし世帯が多くなり、玄関先の雪を寄せられない世帯もある。その部分の対応ができる専門業者はないのか。
 - 福祉分野で対応しているが、業者も人手不足で苦慮している。市の除雪についても同様の状況となっていると事務局から回答

5-2快適な移動空間の実現

- ・傷んでいる道路が多いように感じる。すべて直す予算は難しいのは理解しているが。
 - どうしても雪国は傷みやすい傾向にあり、全てを直すことは困難であることは理解していただきたいと事務局から回答

政策6 やさしさと笑顔があふれる市民が主役の地域づくりを進めます

主な意見

Aグループ

6-1市民の主体的な活動の支援と地域づくり活動の充実

- ・ 地区交流センター化となり、地域の特色を生かした活動がされており、とても良いと感じた。今後、地区の課題解決に地区交流センターとして取り組んでいけるよう、更なる支援をお願いしたい。
- ・ 子供たちを遊ばせられる場所が少ないと感じている。きちんと整備されていない公園では遊ばせられないし、夏は暑く、冬は雪のため外で遊ばせるのが難しい。室内で遊ばせられるところといえばY2ぷらざぐらいになってくるので、地区交流センターなどを活用してY2ぷらざのように子供を遊ばせられる屋内施設を増やしてほしい。

6-4市内外との交流促進の推進

- ・ 移住定住イベントに参加する機会があったが、他の市町村は力を入れてイベントに参加している印象を受けたが、横手市は参加していなかった。移住定住に力を入れていないのかなという印象を受けた。

政策 7 横手を思い、市民の想いを実現させる創造的な行政経営を進めます

主な意見

Bグループ

7-1市民ニーズに対応した成果重視の行政運営の推進

- ・市役所の対応はいいと感じている。
- ・最近、事務ミスの報道が多いが、かわいそうだとも思う。
- ・コンビニ交付について、横手市では早々に対応いただいたのでありがたいと思っている。
- ・コンビニ交付できる種類は増えないのか（印鑑証明など）。→ 印鑑証明も戸籍もできると事務局から回答
- ・体育館の建設などで、財政状況は大丈夫か。→ 財政計画を立て、計画的な運用をしているので、大幅な赤字になるようなことはない。
- ・官公庁オークションはインターネットで実施しているのか。→ インターネットで実施していると事務局から回答

7-3戦略的・計画的な人材育成と能力開発の充実

- ・事務ミスや不祥事などの職員のニュースが増えており、この評価には載っていないと思うが、なにかしら反映することはあるのか。→ 事務ミスの是正に向け、副市長を筆頭に対策を実施しており、人材育成の部分でも対応していきたいと考えていると事務局から回答
- ・職員の配置が適材適所になっていないと感じる。適材適所になるよう検討してほしい。